

福栄倉庫

生地の入出荷作業軽減

RFID新システム導入

物流企業の福栄倉庫(福井市)はこのほど、織・編み物の入出荷作業を軽減する新システムを導入した。RFID(無線通信)による個別管理システムを組み込んだ荷札を生地に貼り付け、専用スキャナーで読み込んだデータは自動入力されるため、専任担当者が目視で確認しデータを打ち

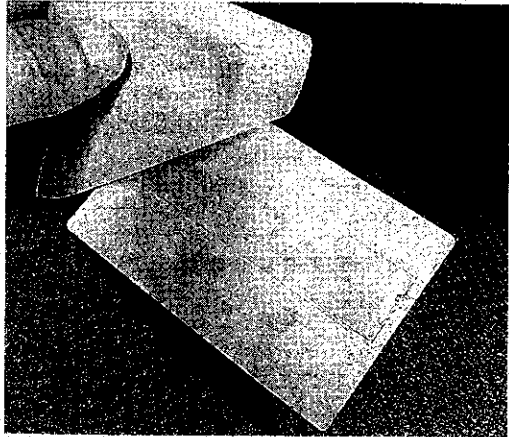
込んでいた膨大な従来作業をなくすことができる。新システムは同社が企画し、三谷コンピュータ(福井市)と共同開発した。RFID荷札には品名、サイズやバーコードも印字し、目視確認もできるようにした。染色後の加工反はロー

ルごとに長さが異なる。品名やロールの長さを管理するための荷札は、そのほとんどが手書き。分業化されているため、織布工場、ニッター、染色加工工場、物流企業など各段階の企業は入出庫の際、専任担当者が目視で荷札の内容を確認し自社のシステムに手入力しなければならぬ。同社が導入した新システムはこうした煩雑な作業を減らし、効率化できるため「これまでの専任下

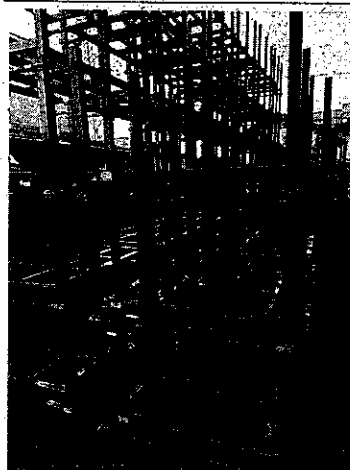
担当者を他の業務に回すなど人材の有効活用にもつながり、データを活用すれば営業力強化にも寄与する」と青木伸太郎専務は言う。

専用スキャナーを使い、倉庫内の製品も探しやすい。誤配送や紛失を防ぐことになる上、新システムを各繊維企業が導入し、クラウド上で情報共有すればトレーサビリティ管理もできる。繊維産業は分業制だが、物流のプラットフォームを共通化し、各社がつながることができれば、分業制でも強さを発揮できる」としてこのシステムを外販する予定。初期費用は200〜300万円、下

げ札は一枚18円。



RFIDを組み込んだ下げ札



専用パレットも開発

専用パレット新開発 サンプル生地加工も

福栄倉庫は繊維関連の物流が主力で、1948年に創業。繊維製品の保管、国内配送はもちろん、輸出入通関業務や保税倉庫の認可も取得した国際物流も行う。さらに繊維関連では付帯業務としてサンプル生地の加工業務なども手掛ける。

年々、事業規模を拡大しており、このほど堀ノ宮営業所・倉庫(福井市)

の事務所・倉庫の新設に替えていたが、生地を載せたトラックから倉庫にそのまま運び入れることができるもの。このパレットにもRFIDタグを付けて管理できるようにした。